



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

イベントで居場所紹介

ワカフェス/スマイル日光/ボラフェス など

いつもより早い春がやってきて、感染対策最優先で明け暮れたこの3年間の「雪解け」が、ゆっくりと始まったのかも知れません。2月と3月には「子どもの居場所」、「なんとなくのにお」の活動を対面で紹介する機会がいくつかありました。

■ **子ども・ワカモノフェスタ** 毎年12月、栃木青少年センター・アミクス（宇都宮市）で行われていたイベントです。コロナで中止となり、2月に久しぶりの開催となりました。栃木県内から多くの団体、当事者が集まり、不登校、子どもの居場所づくり、子どもの権利についての討論、各地にある居場所活動紹介などのセッションがありました。

今回は居場所の中学生が組み立てたアンプキットでBGMを鳴らし、小型ボードコンピュータや自動制御倒立振子などを展示しました。「子どもの居場所でプログラミングをやってみよう」という質問には、micro:bit や Arduino 学習キットを紹介。倒立振子は3年ぶりの展示でしたが、しっかり2時間倒れずがんばってくれました。電磁波によって離れた場所にもエネルギーが伝わることでLEDの点滅で実感できる、ワイヤレスミニ送電も好評でした。（下写真）

■ **スマイル日光・寄付金贈呈式** 「スマイル日光」に応募していた寄付金10万円をいただけることになり、2月20日に贈呈式がありました。式の中で、子どもの居場所事業や



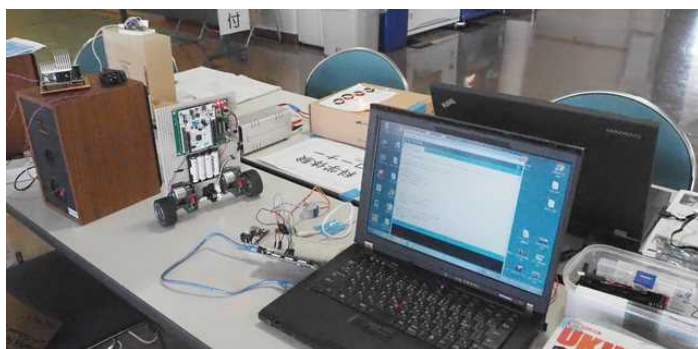
「なんにわ」で製作したメインアンプとスピーカーがやっと完成。テスト中です。

相談支援事業「さくらそう」について話すことができました。参加者の方から「不登校の子の居場所の存在をもっと広めてほしい」と強い励ましの言葉もあり、とても力づけられました。「スマイル日光」さん、ありがとうございました。

■ **日光ボランティア・市民活動フェスタ** 3月11日、久々のボランティアフェスタが大沢公民館を会場に開かれ、ポスター展示で参加しました。ライブステージ音響担当も兼務していて、会場での居場所紹介や交流ができず残念。次は「なんにわバンド」で参加できるとよいですね。

■ **まちづくり講座(活動事例)** NPOワーカーズコープから活動事例紹介を依頼されました。3月29日、支援センターで「なんにわ」の始まりから現在までの動きを話しました。

昨年は活動拠点引っ越しのため、清掃や荷物整理に追われましたが、今年の春休みは連続して開所。お茶を飲みながらのふだんの会話、テレビゲームや「スイッチ」の電子音と笑い声、ボードゲーム、ギターやオカリナの合奏、バンド演奏と歌声など、居場所も「コロナ以前」の雰囲気に戻ってきました。自然観察や勉強会など、2019年以来中断していた催しを、また始めていきたいと思えます。（手塚）



子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市今市316-4）

日時：毎月 第2月曜日（午前10時～12時）

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円（お茶代）

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合しましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。
(Tel: 090-3227-7079)

目次

イベントで居場所を紹介	1
ChatGPT に聞いてみた	2
多様な学び場・居場所 MAP	3
活動報告、通常総会（5月）	3
こんな本はいかが・61	4

居場所のひとこま

久しぶりに「カタン」をやってます。舞台は大航海時代の無人島。アイテム（資源）を集め、各自の拠点開拓を競うボードゲームです。オンライン版もあるようですが、やはり対面にはそれなりの良さがある。あれ、向こうの部屋からは、ギターと歌が…。(F)



ChatGPT に聞いてみた

いま、なにかと話題の ChatGPT (チャットGPT)、「不登校」について質問してみました。

質問: 小学校や中学校での不登校の子への従来の対応は、学校復帰を目的とする「適応指導」が中心となっていました。これに加え、文科省は「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があることを方針のひとつに取り入れました。このことについてどう考えますか。

ChatGPT: 私は、文科省が「学校に登校する」だけではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指す必要性を方針に取り入れたことは非常に重要であると考えています。

従来の適応指導は、学校復帰を目的としたものであり、一時的な解決策に過ぎませんでした。そのため、児童生徒の根本的な問題解決や、将来に向けた自立心や自己実現のサポートには繋がりませんでした。

それに対して、自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指す方針は、児童生徒の将来に向けた視点を大切に、彼らが自己実現に向けた一歩を踏み出す手助けとなります。この方針を取り入れることで、児童生徒が自分自身の将来について真剣に考え、目標を持って進路を選択することができるようになります。そのため、不登校を機に彼らが新たな可能性を見つけ、社会的に自立していくことが期待できます。

ただし、この方針を実行するためには、児童生徒が自己実現を果たすためのサポートが必要です。そのために、学校や教育機関が適切なカウンセリングや教育プログラムを提供することが必要です。また、家庭や地域も含めた広範な支援体制が整備される必要があります。

総じて、文科省の方針は、児童生徒が不登校から立ち直り、将来に向けた自立を果たすために重要な一歩となるものであると考えます。児童生徒の将来を見据えた支援が必要であり、学校や社会全体で取り組む必要があります。

質問はWeb画面からの手入力です。[Enter]キーを押してから、返答が画面に表示されるまで10秒もかかりませんでした。人間がキーボードを操作し入力するよりずっと早い。これでは「相手は人間でない」と判断でき、「チューリングテスト」は不合格かも...と変なことを考えながら、ChatGPTの答えを読んでみました。改行を適当に入れ、整理したのが上の文です。いかがでしょうか。

まず、質問の主旨を取り出し、それを反復して「非常に重要である」とのコメントを付け加えています。導入部に続く次の文も「学校復帰を目的とする適応指導」という質問文を逆転させて返すことで、質問を受取ったというメッセージを送り、質問者と円滑に討論を開始するための手法のように思えます。そのあとに、ChatGPTの「かんがえ」が展開されます。従来の適応指導は「一時的な解決策に過ぎなかった」と断定し、問題解決や児童生徒へのサポートにはつな

がらなかったとまとめていますが、言っていることの根拠については何も示されていません。

さらに「社会的な自立」に向けた指導についても同じパターンが見られます。質問文中の「文科省が方針として取り入れた」ことを肯定し、支援体制を整備する必要性を述べ、「学校や社会全体で取り組む必要がある」とまとめる。「ふむふむ」と納得させられ、これを書いた「人」はそれなりの知識があるのかなと思わせる文章です。しかし ChatGPTは何も考えてません。質問文に良く似た文をインターネットから見つけ、その周辺にあるコメントを要領よく貼り付けたのがこの回答なのでしょう。ChatGPTがどこからか探し出した『こうすれば不登校から立ち直る』という物語をのっぺらぼうから説明されたような気がします。大学で教えているある先生に読んでもらったところ、「論理はちぐはぐだし、根拠となるデータも示されていない。このレポートには書き直しを求めろ」という答えでした。

ちょっと調べてみたら、ChatGPT はインターネットに記録されている膨大な文書を解析・学習し、日々、データを蓄積しているとのこと。その知識データベースをもとに、質問に対する自然言語の回答を作り出すという仕組みになっているそうです。昔プログラムを書いていた頃、よく原因不明のエラーに悩まされました。そんなとき、エラーメッセージをコピーしてネットで検索すると、解決法に行き当たるのがよくありました。プログラミングの世界での「よくある質問」を自然言語に拡張したものが ChatGPT なのでしょう。それにしても、なめらかな日本語を作り出す技術、もっともらしい返答を組み立てる能力は大したもの。しかも質問の背景を推定し、質問者が向いている方向、受け入れられやすい回答を大量の文書検索により探し出し、体裁のよい形で提示する。考えすぎなのかもしれませんが、入力した短い文章により、質問者の性格や考え方を整理・分類しデータベースに登録しているかもしれません。ご用心を…。

さきほどの質問の後に、「文科省の方針転換からすでに5年が経過していますが、その間にも不登校は増え続けています。この現象をどうとらえたらよいのでしょうか」と聞いてみました。「コロナ感染症の影響、統計方法の変更などが原因」といった回答を想定していましたが、なんと返答途中、数行でChatGPTの反応が止まってしまいました。(単にネットの調子が悪くなっただけかもしれませんが) 画面にあらわれた回答の一部はあいまいで意味のわからない文でした。

興味のある方はぜひ ChatGPT を体験することをお勧めします。メールアドレスを登録すれば無料で使うことができます。よりよい回答を得られる、有料サービスも始まったとのこと。居場所でこんな話をしていたら、誰かが「連続ドラマ(アニメだったかも)のあらすじを聞いてみると面白いよ」と。なるほど。しかし、ドラマ要約文の『著作権』ってどうなってるのだろうか、などなど疑問は尽きません。

ともかく「ChatGPTさま」は何かを考えているわけでもないし、何かを主張しようとしているわけでもありません。計算しているだけです。(深層学習としての「計算」を人間がフォローできなくなるという問題は今後ありそうですが) その「答え」をどう解釈するか、無視するか、現実世界に反映させるか、決めるのは私たち人間であることを忘れずにおきましょう。(手塚)

- 1月31日 (火) 通信「なんとなくのひろば」第70号 発行
- 2月12日 (日) こども・ワカモノフェスタ (宇都宮市) 展示参加「ITおもちゃ」
- 2月13日 (月) 茶話会 (第124回)
- 2月20日 (月) スマイル日光・寄付金贈呈式
- 2月26日 (日) ベリー会：学習講演会
- 2月28日 (火) 2022年・日光ボランティアフェスタ全体打ち合わせ会
- 3月 7日 (火) 第112回 理事会
- 3月11日 (土) 日光ボランティアフェスタ (2022年度)
- 3月13日 (月) 茶話会 (第125回)
- 3月29日 (水) NPOワーカーズコープ・まちづくり講座 (活動事例)
- 3月26日 (日) ベリー会：月例会(グループ相談会)
- 3月31日 (金) 子どもの居場所・2022年度 最終日
- 4月 3日 (月) 子どもの居場所・2023年度 開始日
- 4月10日 (月) 茶話会 (第126回)

さくらそう関連

2022年度 日光市相談支援専門員連絡会

2月22日 (水) 第11回 日光市相談支援専門員連絡会 (事例検討・意見交換会)

3月22日 (水) 第12回 日光市相談支援専門員連絡会 (事例検討・意見交換会)

2022年度 日光市障がい者自立支援協議会

2月 9日 (木) 第8回 ケース・事例検討会議

3月 2日 (木) 第2回 相談支援実務者会議 地域課題の今後の取り組みについて

3月 9日 (木) 第9回 ケース・事例検討会議

2022年度 日光市権利擁護 (成年後見制度利用促進) 研修 (3月8日 (水))



PCコーナー掲示板の一部です:上から、「ソロモンの館」の絵、ルービックキューブの解法、「ムーアの法則」のグラフ、机の上には「Pythonで作るゲーム」本

とちぎ
多様な学び場
居場所MAP
~あなたはひとりじゃない~

不登校は誰にでも起こります。問題行動ではありません。

学校復帰を前提としない
学校以外の場が
求められています。

とちぎ県内の多様な
学び場や居場所を
紹介します。

学校以外の場を共につくるとちぎネットワーク
このMAPは栃木県教育委員会の協力で作成しました

多様な学び場・居場所MAP

居場所にあります

「学校以外の場を共につくるとちぎネットワーク」が作成した居場所マップです。栃木県内の親の会、フリースクール、学び場、相談窓口などが紹介されています。作成・配布には県教委も協力。なんにわにも送付され、市教委を經由して日光市の小中学校へ各20部を配布しました。

もちろん、「居場所MAP」には

「なんにわ」も掲載されています！

日光市 子どもの居場所: 場所はここ →

毎週 月～金曜日 (祝日は休みます)

開所時間 12時30分～16時30分

学校の夏、冬、春休み中も開いています。

時間割や日程表なし、出入り自由です。

相談、見学自由です。お問い合わせください。



5月13日(土) 第19回 通常総会のお知らせ

NPOとしての「通常総会」は今年で19回目を迎えます。コロナ蔓延のためここ数年は委任状での会となりましたが、今年は「子どもの居場所」を会場に、前年度の活動を報告し、今後の事業計画を話し合う場にしたいと思います。発熱チェックなど感染対策の上、ご出席をよろしくお願いいたします。

日 時: 2023年5月13日(土) 午後1時30分 開会

会 場: 日光市 子どもの居場所 なんとなくのいわ

〒321-1261 日光市今市316-4 電話 090-3227-7079



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

こんな本はいかが？ その 61

「心」について考えさせられる本

今回は最近出会った2冊の本を紹介します。どちらも精神科医が書いた「心」について深く考えさせられる本です。

◎ 「人は、人を浴びて人になる」

～心の病にかかった精神科医の人生をつないでくれた12の出会い～

夏苺郁子・著 ライフサイエンス出版 2017年

この本は、「ラジオ深夜便」(NHKラジオ)や朝日新聞などで紹介されて話題になりました。「生きていくことに疲れ、二度の自殺未遂を起こした著者が、大切なことを教えてくれた『出会い』、そして一本の道でつながっている人生を振り返る自伝的エッセイ。」と帯に書かれていました。

辛く悲しい子ども時代がありながら、なんとか生き続けられたのは、その都度その都度に出会う人や動物に助けられたからですが、このことは決して偶然ではなく必然だったのだらうと私は思います。人の心は人によって壊されるのも現実ですが、心を癒したり回復させたりするのも人によってなのですね。

◎ 「我慢して生きるほど、人生は長くない」

鈴木裕介・著 アスコム 2021年

この本には、

- ① 我慢せず生きていくための公平で安心な人間関係の作り方
- ② 会社や社会に疲れてしまった人への処方箋
- ③ 思い込みを捨て、自分らしい人生を取り戻す
- ④ 誰にも振り回されず、自己肯定感を保つには
- ⑤ 「心地よくない」「楽しくない」と感じたものは捨てる

という内容が書かれています。

私たちは通常「他人の価値観やルール」「他人の感情」に支配されているものだと気づかされます。「良い人」であろうとすればするほど、「自分の感情」がわからなくなってしまうのかもしれない。

この2冊の本は公立の図書館に所蔵されています。是非手に取ってページをめくってみてください。

(白井)

会員について

正会員：50

賛助会員：13

団体会員：4

入会金なし

年会費(一口)

正会員 3,000円

賛助会員

個人 5,000円、

団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしくお願いいたします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお待ちしています。

なんとなくのへや

震災の少し前の頃、「サイエンス・カフェ」で「霧箱」をテーマにしたことが何度かありました。霧箱は放射線を可視化するための道具です。電気を帯びた微小な粒子が水蒸気を過剰に含む空気中を通過すると細い霧のすじをつくり、飛跡を肉眼で見ることが出来ます。その原理は飛行機雲にたとえられます■19世紀末に発明され、科学の最先端で素粒子の発見・研究の道具として活躍しました。その後は新たに開発された検出器に座をゆずり、今は放射線の性質を知るための教材として使われています■昨年の居場所引っ越しのとき段ボール箱に閉じ込めたままになっていた霧箱の材料をつい最近見つけ、そういえばこんな実験もやっていたなと思い出しました。「霧箱、放射線」でネット検索してみると、たくさんの新しい資料が見つかります。水蒸気でなくアルコール蒸気で過飽和させ温度勾配のある状態を容器内に作るところまでは変わりませんが、近頃の改良版はプラスチック容器やそれを覆うラップなど適切な材料が紹介され、より放射線の飛跡を見やすくする工夫がなされています■よし、改良版を作ってみよう箱の材料や照明LEDなどを集めたところで、困りごとがひとつ。冷たいアルコール蒸気を作るために必要なドライアイスの入手先が見つからないのです。コロナ前、居場所やイベントで気軽に実験ができたのは、近くの氷屋さんからレングほどのかたまりを買うことができたから。流通ルートが変わってしまったのかもしれませんが■知り合いに尋ねてみたら「通販で売ってるよ」と。なるほど、それは気付かなかった。キログラム千円くらいで買えるらしいが、予定した日に届かなかったりすると困ります。ちょっとした実験で使えるドライアイスの入手先、教えていただけるとありがたいです。(T)